裁判所内での 転倒事故

105万円支払い命令

大阪地裁堺支部で、視力傷害者の男性が階段で転倒し、肘の骨を骨折した。

点字ブロックや滑り止めがあれば転倒することはなかった。公共性の高い建物には利用頻度にかかわらず安全確保の設備を設けるべきであり、こうした整備は努力目標ではなく、法的な義務であるとして、裁判所自らの瑕疵を認定し、裁判所を管理する国に対して105万円の支払いを命じた。
(大阪地裁 2004年12月22日)

ウインズ渋谷

264万円支払い命令

ウインズ渋谷で男性が転倒し、腰と左ひざをねん挫した。

東京地裁は、転倒した場所は御影石が光を反射するほど磨かれ、傾斜している上、当時雨でぬれていた。歩行者が転倒する可能性は無視し難いものがあり、設置と管理には欠陥があったと判断し、JRAに264万円の支払いを命じた。
(東京地裁 2006年9月27日)

雨で床が 滑り転倒 しまむら

572万円支払い命令

ファッションセンターしまむらを訪れた女性が、入り口の自動ドア付近に置いてあった傘袋のスタンド近くで転倒し、右太ももを骨折。後遺障害で右股関節が動かしにくくなった。

客が滑って転倒する危険があったことは明らかで、滑りやすい状態が放置されていたとして、慰謝料などの支払いを命じた。
(福岡地裁2011年11月29日)

みずほ銀行

92万円支払い命令

みずほ銀行の支店出入口にあった足拭きマットが滑り転倒、頭や腰を打撲するなどの怪我をした。

マットの裏側が濡れており、足を乗せたことで滑ったのが原因。客の安全を確保する必要があるのに、管理を業者に任せきりにしていたと銀行側の注意義務違反を認めた。(東京高裁2014年3月14日)